

2023 観光学科カリキュラムマップ

- DP1 【知識・理解】 観光と社会の双方について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 【教養・異文化理解】 グローバルな視点から、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、適切に理解して行動することができる。
- DP3 【汎用的技能・マネジメント】 国内外グローバル化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、プロジェクトのマネジメントについて理解し活用することができる。
- DP4 【コミュニケーション・共創】 グループワークに必要なコミュニケーション能力を身に付け、相手の立場に立って考え、共働力を引き出すことができる。
- DP5 【倫理観・連携・協働】 社会人として必要な倫理性を身に付け、多様な価値観を認め寛容さと他者理解の上に対等共感力、豊かな表現力を持って、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP6 【主体性・課題発見・課題解決】 現場での活動を通して身に付けた「やり抜く力」を活かし、主体的に課題を発見し、解決に向けて行動することができる。
- DP7 【社会性・創造性】 生涯にわたって学習し自己研鑽を重ねる意欲のもと、社会が求める知識・技能を持続的に高めながら、観光の新しい価値の創出に貢献することができる。

系列	共通基盤	授業科目	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	マッチング											
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	SDG's該当項目				
全学 部 共 通 基 盤 科 目 群	大学での学びの基礎を固める	アカデミックスキルズ	1	選択 (推奨)		本授業は大学4年間をいかに有意義に過ごすかについて考える。円滑な大学生活を送るための学習支援環境や教育プログラムについての理解を深めるとともに、授業中のマナー、情報交換の際のルール、大学生として相応しい振る舞いについて学ぶ。加えて、情報収集の基礎や観光の関連資料について理解を示し、今後の学部での学びをサポートする。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	Fundamentals of English I	2	選択 (推奨)		This English multi skills course is designed to build upon students' basic English knowledge at a linguistic and cultural level, and to develop their communicative ability.		◎										
	大学での学びの基礎を固める	Oral Fluency I	2	選択 (推奨)		This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies.		◎										
	大学での学びの基礎を固める	中国語I	2	選択 (推奨)		初めて中国語を学ぶ学生を対象とする。中国語の発音 (ピンイン) と表記などを徹底的に学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	中国語II	2	選択 (推奨)		中国語Iあるいは中国語I Aを履修した学生を対象とする。基礎的な中国語の文法を学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。また、日常生活に密着するコミュニケーション能力を養うことを図る。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	韓国語I	2	選択 (推奨)		韓国語の文字ハングルを正しく読み、書くことができる。日常会話でよく使う文法を理解することができる。身近な話題 (名前、年齢、誕生日、家族構成、好きな食べ物など) について簡単な会話と作文ができる。スマートフォンやパソコンでハングルを入力し、連絡や情報検索などができる。ハングル能力検定5級以上の合格を目指す。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	韓国語II	2	選択 (推奨)		韓国語Iで学んだ内容を復習し、理解を深める。より複雑な表現と文法を理解することができる。学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。ハングル能力検定5級以上の合格を目指す。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	ハンガリー語I	2	選択 (推奨)		初めてハンガリー語を勉強する入門クラス。基本文法と基本語彙のほか、日常会話を学習する。教科書の各章などを紹介する授業の専用YOUTUBEチャンネルなども用いて学習効果を高める。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	ハンガリー語II	2	選択 (推奨)		初めてハンガリー語を勉強する入門クラス。翻訳の練習として英語からハンガリー語、ハンガリー語から英語への翻訳なども学ぶ。ハンガリー研修やハンガリー留学プログラムの準備コース。		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語I	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語II	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	統合日本語I	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	統合日本語II	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語アカデミックライティング	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	日本語アカデミックスピーキング	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	社会と文化の日本語A	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	大学での学びの基礎を固める	社会と文化の日本語B	2	選択 (推奨)		留学生のための日本語プログラム		◎										
	現象世界をつかむ	データサイエンスI	2	選択 (推奨)			本講義は、文科省「数値・データサイエンス・AI (リテラシーレベル)」の内容に準拠し、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象とする。そのため導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展を学ぶ。基礎では、教員と一緒にExcelによるデータ演習を行う。心得では、今後データを扱っていく場合に気をつけるべき事項を学ぶ。		◎									
現象世界をつかむ	デジタルアプリA	2	選択			大学のPCを使用し、Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を学ぶ。本講義では教科書を使い、教員からアプリケーションの機能を説明した後、学習者が自らパソコンを操作し、操作上の不明点を教員がサポートする形で進めてゆく。		◎										
現象世界をつかむ	デジタルアプリB	2	選択			大学のPCを使用し、Word、Excel、PowerPointの具体的な利用シーンを想定してレポートやデータ分析、プレゼンテーション等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組み、本講義では教科書を使い、教員からアプリケーションの機能や文書・資料の作り方を説明した後、学習者が自らパソコンを操作し作業を行う。		◎										
現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2	必修	○		本講義は、観光が求められる現代の意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオンニバス形式で展開する。人際や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源 (芸術、健康、自然など) や、観光と社会の関わり (ビジネス、まちづくり、メディア) についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。		◎										
現代社会の課題に挑戦する	ヘルスツーリズム	2	選択 (推奨)			ヘルスツーリズム (旅業)・セラピューツーリズム、メディカルツーリズムの概念、特徴、歴史などの基礎知識と関する先進事例について学ぶ。様々な事例を通して、自分のライフスタイルを点検し、日常生活において健康を留意するとともに、広義のヘルスツーリズムが目指すものを総合的に理解すると同時に、ニューツーリズム発展の観点から、ヘルスツーリズムの現状や課題及び問題の解決方法を学ぶ。		◎										
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトA	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトB	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトC	2	選択 (推奨)			域学競争プロジェクトは、地域に沈滞しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に対して、学生が主体的に取り組む実践型プロジェクトである。そのため、プロジェクトには参加学生ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組むこととなる。そうした中で、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。各プロジェクトの詳細は授業オリエンテーション及びシラバス等で確認すること。		◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトD	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトE	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトF	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトG	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトH	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトI	2	選択 (推奨)					◎		◎								
現代社会の課題に挑戦する	域学共創プロジェクトJ	2	選択 (推奨)					◎		◎								
歴史をひもとく	人類とものづくり	2	選択 (推奨)			いわゆる【衣】【食】【住】のほかに、【娯楽】【移動】【想像-創造】という大きな主題を切り口として取り上げる。そして、それぞれの中で設定した個別具体的な事象に関する理解を通して、人間の「これまで」と「これから」について考える材料を提供する。 各回において、考古学や歴史学に基づく具体的な情報をもとに、自らが生きていく時代について考える要点を示すこととする。		◎										
歴史をひもとく	房総の文化と歴史	2	選択 (推奨)		○	千葉県すなわち「房総」、及び東京都都区すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的時間軸に沿う形で学修する。 併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。		◎	◎									
世界を創造する	地理学A	2	選択 (推奨)			地球の歴史、構造、気候、自然環境及び地形から、そこに住む人々の生活営みから、地理学を学ぶ。つまり、人間活動以外の部分である自然環境と人間が作り上げてきたまたは深く関わってきた環境、両面から地理学を学習する内容で授業を展開する		◎										
世界を創造する	世界遺産のいま	2	選択 (推奨)			「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。 本講義では、世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGs」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合いつつ、単なる観光資源としてだけでなく、その深い理念を学ぶ。		◎	◎									

	インターンシップ (国内)	2	選択	○	「インターンシップ (国内)」では、「仕事の厳しさ・楽しさ」と「企業で活躍すること」を実地で学ぶことを目標とする。就職活動を見据え、現場を通して様々な業務に触れ、社会で必要とされる力がどのようなものかを体験する。また実際に職業体験をすることで、就職後のアンマッチを避けられるようにすることも実施意義の一つである。参加者は与えられた業務に対して真摯に向き合うことの重要性を実地に理解する。	○	○		◎					
	インターンシップ (海外)	2	選択		「インターンシップ (海外)」では、日本国内では経験できない職務経験を、海外における観光の現場で経験することで観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。時間数、報酬等については、ビザの条件など渡航先の国と事業所の規定に従うものとする。ただし、留学生が母国に帰省して参加するインターンシップは、原則対象外である。	○	○		◎					
	インターンシップ (長期)	6	選択		「インターンシップ (長期)」は、大学が定める事業所のみで実施される長期プログラムで、観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。研修期間は、原則2〜3カ月程度とし、「インターンシップ (国内)」、「インターンシップ (海外)」とは別途、新たに単位を認定する。履修者は、担当教員の指導のもと、事前・事中・事後指導への参加、レポート提出等が義務づけられる。	○	○		◎					
	観光ビジネス特別講座	2	選択		本講座は、観光ビジネスの現場を見学し、観光ビジネスが提供する経済的価値と社会的価値を実地で学ぶことが目標である。宿泊業、交通運輸業、外食産業、MICE施設などの分野に関して、第一線で活躍される方々から講話を伺う機会を設けるなど、理解を深める。また、人口減少、観光公害、感染症など様々な社会課題の影響や地方創生、観光振興の取り組み、社会インフラとして果たす役割などを現場の視点で学ぶことに重点を置く。	◎	○							
	デジタルアプリA	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。コンピュータの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の基礎、Microsoft Word、Excelなどを使ってレポート等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組む。	○	◎							
	デジタルアプリB	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft PowerPointなどを使ってプレゼンテーション資料などを作成する際の実践的なスキルを修得するとともに、プレゼンテーションスキルの向上に取り組む。	○		◎						
	デジタルメディアA	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力、実践力を身につけるために、ICTの応用スキルを修得することが目標である。具体的にはAdobe Illustratorの利用方法を学び、イラスト描画方法やトレース方法などを修得する。このアプリを用いて、観光などの様々な現場で求められる地図やチラシ、ポスターなどの紙媒体の資料を作成する方法を身につける。	○		◎						
	デジタルメディアB	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力を身につけるために、ICTの応用スキルとして動画編集の技術を修得することが目標である。具体的にはAdobe Premier Proを用いて、観光の様々な場面で求められる動画を作成する方法を身につける。	○		◎						
専 門 基 礎 科 目	観光と社会	2	選択	○	本講義では、観光現象を人の移動、旅、交流といった大きな視点から捉え、それを取り巻く社会や文化、歴史とくわが繋がっていて、どのような課題があるのかについて考える。具体的には、現代のグローバル社会を考える上で重要なダイバーシティ、ジェンダー、ポスト植民地主義といった概念を理解し、それらの概念が観光にどのような影響を与え、どのような課題があるのかを、日米欧の観光の具体例を挙げながら検討する。	○	○		◎				10	
	観光人類学	2	選択		本講義は、文化人類学の視点から、観光によって生じる伝統的文化と新しい文化に現れる影響などについて理解を深めることが目標である。人間の移動は新たな文化との接触を生み出す。観光による文化変容やホストとゲストの関係、観光によって作られた文化が伝統的文化の再生や維持につながる点などを観察し、具体的な事例を用いて観光における他者と伝統的文化との関係について学修する。	○	○		◎				10	
	観光行動論	2	選択		本講義は、観光者の行動について、心理学や日本人の行動の歴史の実態などの基礎的分析をもとに、観光やサービスの場面におけるノンバーバル・コミュニケーションやサービスの基礎理論、さらには観光回遊行動の特性について学ぶことが目標である。また、ビッグデータ、RESAS (地域経済分析システム) などの最新技術を取り入れることにより、具体的な分析方法を身につけることを目指す。	○	○		◎				8	
	観光地理概論	2	選択	○	本講義は、地理学の領域から観光を捉えるための基礎知識を学び、観光地形成への理解を深めることが目標である。具体的には観光関連産業の発達や観光地化に伴う生活・文化への影響などを取り上げるとともに、都市や農村の人口交流、農山村の集落域域の特徴、都市景観や交通、そして温泉保養地などの観光地の形成について、具体的な事例を取り上げながら理解を深めていく。	○	○		◎					11
	観光政策	2	選択	○	本講義は、観光法制を含めた観光政策全般についての基本的知識を修得することが目標である。観光はビジネスであると同時に、国と国との交流という側面も持っている。従って、市場に任せておくだけでなく、政府が積極的に関与し、人の交流をスムーズにいくために予算の裏付けのある諸施策をタイムリーに実施していくことが求められる。講義では、観光活動がこうした政府の政策に大きく影響を受けることに対する理解を深めていく。	○	○		◎					11
	旅行ビジネス基礎	2	選択	○	本講義は、観光ビジネスに関する基礎科目であり、主に旅行ビジネス関連業務の基礎知識を身につけることが目標である。国内・総合旅行業務取扱管理者資格の試験範囲を網羅した広範な旅行業務について、資格試験対策といった技術的な事項にとらわれず修得することを旨とする。講義では、ツアープランニング、交通機関の手配、宿泊地の手配などの具体的な事例を通じて、旅行業務の面白さを実感してもらうことを主眼とする。	○	○		◎					8
	観光まちづくり概論	2	選択	○	本講義は、観光まちづくりに関する基礎的な知識や考え方に対する理解を深めることが目標である。観光まちづくりの導入授業であり、観光まちづくりの様々な要素について、基礎的な知識や考え方を学修する。具体的には、観光まちづくりとは何かから始まり、観光やまちづくり概念の変遷、観光まちづくり政策や着地型観光の取り組み、観光地経営など、観光まちづくりの基本的な考え方に対する理解を深める。	○	○		◎					11
	観光マーケティング	2	選択	○	本講義は、観光ビジネスに関する基礎科目であり、主にマーケティングの観点から交通運輸業、宿泊業、ツーリズムの基礎知識を身につけることが目標である。講義では、観光ビジネスの企業に加え行政による取り組みも取り上げる他、ワーケーション、MaaSなど最近の動向にも触れる。ふんだんなケーススタディを通じてマーケティング戦略の基礎を学ぶことで、将来業務で活用できる理論と実践的な知識を身につけることを目指す。	○	○		◎					8
	観光と芸術	2	選択		現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、都市のブランディングにも寄与するアートや伝統文化・芸術と観光の関係について理解を深めることを目標とする。講義では、芸術と観光の関係性を明らかにし、芸術による観光活用の手法を学修するとともに、訪日外国人観光客が体験型観光として注目する茶道、浮世絵、陶磁器等について体験的に学ぶ。	○	○							4

観光と自然資源	2	選択	本講義では、自然地理学的視点から、国内外の自然資源に関する知識への理解を深めることが目標である。特に地形学や気候学とともに、国立公園などの地域資源を取り上げ、自然資源の持続的な利用や管理に関する手法を学修する。また、自然を含む環境全般と人間の関わりに関して、身近な生活環境の中から自然、緑、街などのトピックを用いて考察する。	○	○	◎				13
観光と文化財	2	選択	本講義では、文化財や建築物に焦点を当て、世界各地にある文化的遺産と観光の関わりについて理解を深めることが目標である。観光と様々な文化財や建築物には深い関係がある。文化財・建築物は「モノ」としての魅力があるが、それにとどまらず、歴史、文化、宗教、民族など様々な文化的要素との深い関わり合いを持って成り立っている人類の遺産でもある。文化の証としての文化財や建築物についての理解を深めていく。	○	○	◎				9
観光と食農・漁業	2	選択	本講義では、観光と食文化の関わりについて理解を深めることが目標である。観光と食文化は関わりを持つことが多い。現在でも農産と観光の融合は、観光業界の重要な柱となっており、漁業でも漁業体験を地域観光に活かす動きが広がっている。講義では、こうした食文化に加え、観光にも関わりのあるバイオテクノロジーやアロマセラピーの視点も取り入れることで、地域特性を活かした観光について理解することを目指す。	○	○	◎				14
観光メディアリテラシーA	2	選択	本講義は、観光に果たすメディアの役割について、メディアの基本的な特徴を学修しながら、メディアを正しく受容するためのメディア・リテラシーを身につけることが目標である。現代は、雑誌やガイドブック、パンフレットなどの紙媒体、テレビ番組やYouTubeなどの映像ソフト、インターネットにあふれる旅情報など多岐にわたる観光メディアがあふれている。講義では、観光に果たすメディアの役割について理解を深めていく。	○	○	◎				9
観光メディアリテラシーB	2	選択	本講義は、メディア全般や観光メディアの特徴や課題について議論を深めることが目標である。観光だけに限らず、広く社会現象がどうメディアで取り上げられているか、またそれを受け手はどのように受容しているかといったメディア・リテラシーについて、多面的な考察を試みる。そして、自分がメディアの発信側になった際どんなことに気を付けなければならないかという点まで思考を深める。	○	○	◎				9
ニューツーリズム	2	選択	本講義は、様々なニューツーリズムを取り上げ、これまでの観光形態とニューツーリズムが掲げるコンセプトの違いを理解することが目標である。講義では、観光庁が主導するニューツーリズムのいくつかを学び、事例を通じて商品化されている実態を学修する。観光による地域活性化を行うために地域特徴を活かしたテーマ性の高い観光をどのように開発するかなど、グループワークでの発表などを通じて理解を深めていく。	○	○	◎				11
観光ビジネス経営管理	2	選択	本講義は、観光ビジネスに共通する経営管理について、主に採算管理、組織運営、リスクマネジメントの視点をつけることが目標である。観光ビジネスの特徴は生産と消費が同時になされる即時性であり、採算性向上には稼働率・稼働率などの数値的経営管理が、サービス品質向上には現場の人材のモチベーションを高める組織運営が求められる。また、移動を伴う観光ビジネス経営には特に重要なリスクマネジメントへの理解も深める。	○	○	◎				9
旅行ビジネス	2	選択	本講義は、日本及び世界の旅行ビジネスを理解することが目標である。旅行ビジネスとは、観光、娯楽、仕事などの様々な理由で移動する際に必要なサービスを提供する企業活動の総称である。新型コロナウイルス前は全世界で年間14億人もの人が海外を訪れており、旅行ビジネスは国際的な競争の中にある。講義では、主に旅行会社の現状を概観し、マーケティングや経営戦略などを分析するとともに、今後の旅行ビジネスへの理解を深める。	○	○	◎				9
ホテル・旅館ビジネス	2	選択	本講義は、観光におけるホスピタリティ・ビジネスの中核である宿泊業について学ぶことが目標である。講義では、ホテル業を対象に、歴史と現状を分析し、ホテル業の社会的存在意義・経営の価値観・組織・人材・資本・企業価値の向上など事業経営（What）と、日々の運営に関するシステム・仕事の仕方（How）について考察する。具体的には、宿泊業の現状や法制度、施設の基本構成や人材開発、ホテル事情などを取り上げる。	○	○	◎				9
エアラインビジネス	2	選択	本講義は、エアラインビジネスを多面的に学ぶことを通じ、エアライン業務や人流・物流についての理解を深めることが目標である。講義では、航空産業の成り立ちや経営環境、エアラインビジネスの具体的な業務実態、安全・リスク管理、事業戦略、マーケティングなどに関する知識を様々な事例を交えて身につけるとともに、観光ビジネスで必要とされる幅広い知識や経営手法、さらには基礎的な思考力を修得することを目指す。	○	○	◎				9
観光交通	2	選択	本講義は、鉄道や高速道路を利用した事業、人の流動、地域活性化についての理解を深めることが目標である。鉄道に関しては産業の成り立ちや経営環境、具体的な業務実態、関連事業、経営戦略など、高速道路に関してはハイウェイが地域の産業や観光に果たす役割、サービスエリアやハイウェイオアシスといった高速道路関連事業の戦略などに関する知識を身につけるとともに、鉄道・高速道路ビジネスによる地域活性化についても考察する。	○	○	◎				9
イベント・プライダルビジネス	2	選択	本講義は、テーマパーク、プライダル、イベントなどを切り口として観光への理解を深めることが目標である。ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、ハウステンボスといったテーマパークは観光の牽引車であり、プライダルやイベントも観光を促すビジネスである。さらに、MICEに観光の色彩を加えることでIR（Integrated Resort）を展開することは是非などの議論を通じ、観光の重要性に対する理解を深める。	○	○	◎				9
アジア観光研究	2	選択	本講義は、アジア全体の理解を深め、アジアの観光に関する基本的な知識を身につけることが目標である。講義では、アジア諸地域の観光の在り方について学び、域内観光資源の活用方法を考察することともに、訪日観光の視点からインバウンド上位国及び地域からの訪日観光客の特性と動向を分析することを通して、インバウンド観光の重要性と必要性への認識を深めていく。	○	○	◎				10
欧米観光研究	2	選択	本講義は、欧州・米国の歴史的・文化的背景を概観しつつ、その観光特徴について理解を深めることが目標である。講義では、ヨーロッパの様々な国における観光の経済的、社会的、政治的、環境的状況を理解することで、観光が何れ進むべき方向性について理解することが目標である。併せて、アメリカの観光事情についても、歴史的・文化的背景を概観し、その理解を深めていく。	○	○	◎				10
観光まちづくり事例研究	2	選択	本講義は、観光まちづくりの実践について概観し、その具体的な手法に対する理解を深めることが目標である。国際競争力の高い魅力あるまちづくりは、行政組織における観光政策と地域住民が主体的に地域の魅力を活かす活動の両方が連携することで効果を発揮する。そのような観光まちづくりの具体的な事例を取り上げ、その手法に対する理解を深めながら学修する。	○	○	◎				11
地域観光	2	選択	本講義は、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、日本と世界の話題の「地域」に焦点を当て、地域の特性と最新の観光事情を理解することが目標である。観光は、地域と深く密接に結びついており、その地域に行かなければその特徴を味わえないゆえに、地域は貴重な観光資源となる。講義では、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、現在進行している地域の様々な問題についても理解を深める。	○	○	◎				8
観光地経営	2	選択	本講義は、観光地経営の概念や観光地の経営戦略に対する理解を深めることが目標である。主に、観光地経営の事例分析などを通じ、地域の問題解決へ向けた提案能力を身につけることを目指す。具体的には、日本の国や地方の行政システムや基本計画、観光行政、地方財政の現状や観光による経済波及効果など、地域経営の視点を学修する。また、DMOなどの事例分析を通じ、地域への観光プロモーションの方法についての理解を深める。	○	○	◎				11

	開発経済学	2	選択		本講義は、主に発展途上国における経済の現状や今後の開発のあり方について理解を深めることが目標である。高度経済成長を果たした日本や東アジア諸国の開発理論をモデルとし、発展途上国の経済開発やそれに起因する貧困問題、環境問題などについて学修する。また、独立行政法人国際協力機構（JICA）や日本の政府開発援助（ODA）の活動について概観し、開発途上国への国際協力や経済学の幅広い知識についての理解も深める。	○	○		◎								1	
	地域デザイン	2	選択	○	本講義は、観光において、デザインが果たす役割について理解を深めることが目標である。デザインとは建築やインテリアだけでなく、広く文化に関わっている。観光に関わる様々なモノやコト、ヒトによって生まれる体験的価値の創出が観光地への訪問意向を引き出し、次第に地域としてのブランドが構築される。本講義では、観光に関わるデザインから始まり、地域がブランディングされていく過程を学修する。	○	○		◎									11
専 門 科 目 群 II	観光メディア制作基礎A	2	選択	○	本講義では、観光メディアの観点から地域社会の情報を発信するための基礎スキルを身につけることが目標である。具体的には、観光メディアの制作に必要なAdobe Illustratorなどのアプリを用いて、情報の編集や画像の利用における基礎的なスキルを修得し、実践的かつ理論的な側面から、潜在的な観光客に加え、地域に住む人々に向けた地域情報の共有をテーマとしたフリーペーパーの制作を実践する。				○	○	◎	○					9	
	観光メディア制作基礎B	2	選択	○	本講義は、基本的な動画撮影と動画編集の技術を身につけることが目標である。現在では、地域社会においても多様なメディアを活用できる技術が求められている。本講義では、様々なメディアの撮影機材（ドローン、GoPro,360度カメラなど）を利用して映像撮影を実践する。また、Adobe Premiere Proを利用して、視聴者や視聴する場面を想定した動画編集を行う。				○	○	◎	○				9		
	観光プロジェクトA	2	選択	○	本講義は、履修者が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。				◎	○	○	○					11	
	観光プロジェクトB	2	選択	○	本講義は、履修者が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。				◎	○	○	○					11	
	観光メディア制作応用A	2	選択		本講義は、観光メディア制作基礎Aの応用編として、新しい観光の価値を自ら作り出すスキルの修得が目標である。特に、観光まちづくりに寄与するための地域の情報や、観光ビジネスに寄与できる新しいビジネスを主眼とした情報を掲載したフリーペーパーを制作する。地域の中で行うにあたっての会場借用や会場設置などにも取り組み、自分たちの中で工夫して実施できるようにマネジメントの方法などを身につける。					○	○	◎	○				9	
	観光メディア制作応用B	2	選択		本講義は、観光メディア制作基礎Bの応用編として、既に身につけている高度な動画撮影技術と動画編集技術を活用し、観光地をセルフブランディングする方法を身につけることが目標である。そこで講義では、グループに分かれて地域へ取材を行い、ドキュメンタリー映像などを作成する。映像による地域ブランディングの方法を実践するとともに、チームマネジメントの方法を身につける。					○	○	◎	○				9	
	観光ゼミナールA	1	選択		観光ゼミナール（ゼミ）では、学生は自らの希望する研究テーマのゼミを選択することができる（ただし人数制限があるため、必ずしも希望するゼミに所属することはできない）。ゼミでは各テーマに合わせて、学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールA」では、担当教員とともに研究の方向性やプロジェクトの取り組みを検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。					○	○	◎	○					
	観光ゼミナールB	1	選択		観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールB」は、「観光ゼミナールA」で履修選択したゼミを継続して履修する。「観光ゼミナールB」では、「観光ゼミナールA」で検討した研究の方向性やプロジェクトに取り組み、ゼミでの研究活動を進めていく。また、併せて卒業論文を執筆するかを担当教員とともに検討する。					○	○	◎	○					
	観光ゼミナールC	1	選択		観光ゼミナールでは、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールC」では、担当教員とともに研究やプロジェクトに取り組むと同時に、卒業研究や卒業制作について検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。卒業論文を執筆する学生は「卒業論文」を履修する。					○	○	◎	○					
	観光ゼミナールD	1	必修		観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールD」は必修科目であるので、必ず履修しなくてはならない。「観光ゼミナールD」では、これまでのゼミ研究活動の成果として、卒業研究あるいは卒業制作を課題として執筆・制作し、提出する。なお、卒業論文を執筆する学生は、卒業研究・卒業制作を提出する必要はない。					○	○	◎	○					
	卒業論文	4	選択		「卒業論文」は、ゼミでの研究活動の成果として執筆する。卒業論文を執筆するには、ゼミ担当教員の指導のもとに研究内容を検討し、「卒業論文規定」に基づいて執筆・提出する。そのため、「観光ゼミナールA」から継続的にゼミを履修することで研究活動を深めていくことが重要となる。「卒業論文」に関する諸規定は別途「卒業論文規定」に示している。					○	○	◎	○					

SDG's 17の目標

1. 貧困をなくそう…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」